



ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局
● 広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町584番地
TEL 0824-74-0331
FAX 0824-74-1586

● 『WCS用稲の生産・利用推進研修会』開催（8/28）

H25年度に広島県酪農業協同組合がTMR（混合飼料）センターを整備しました。地域で生産されたWCS用稲を利用した飼料自給率の高いTMRの供給がH26年4月から始まったことを受け、三次市みわ文化センターで研修会が開催されました。

出席者は、WCS用稲を生産する耕種農家や集落法人、畜産農家、団体、行政機関など、総勢100名以上の方々が各地から参加されました。

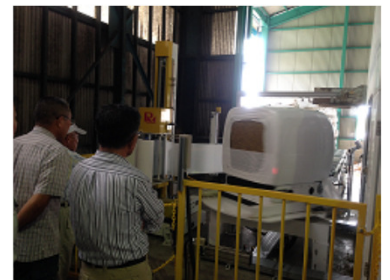
研修での話題提供内容は、つぎのとおりです。

- 県内におけるWCS用稲の生産・利用状況（畜産課 橋本純恵）
- WCS用稲栽培・調製（畜技C 河野幸雄）
- WCS用稲利用の留意事項（畜技C 城田圭子）
- WCSを活用したTMRの利用（広酪 藏崎哲治）

また、広酪みわTMRセンターに移動し、TMRの混合、詰込、梱包の一連の実演（機械名：ラッププレスマスター）を見学しました。

来年度は新規に120haでWCS用稲『たちすずか』の栽培が計画されており、TMRに調製後に畜産農家に届けられます。今後の利用拡大が期待されます。

右上図 混合オーガ
右下図 TMRキューブ
下図 ラッププレスマスター



● 第64回関西畜産学会広島大会シンポジウム開催（9/8）

畜技センターが実行委員を務め、関西畜産学会でシンポジウム「地域自給粗飼料の活用の現状と今後～水田活用による飼料イネ・飼料用米生産と利用～」を開催しました。

今後、水田フル活用の取り組みの加速が予想されることから、現段階までの到達点や課題を明らかにし、生産者、研究者の70名が意見交換を行いました。

シンポジストからつぎの話題提供を頂きました。

- 飼料用米・飼料イネの生産実態と今後の方向
（中国四国農政局 飛瀬勲）
- 飼料イネWCSの生産と家畜への給与
（広島総技研畜技C 河野幸雄）
- 飼料用米の生産と家畜への給与
（島根畜技C 安部亜津子）

現段階までの到達点、課題が明らかにされ、求められる対応について、熱心な討議が行われました。



● インターンシップ受入れ！

本年度も、農林水産局系インターンシップ（8/26）、健康福祉局系インターンシップ（9/4）、宮崎大学インターンシップ（9/1～9/5）を受入れました。

インターンシップに参加された学生さんは将来に向かって明確な目的意識を持たれており非常に頼もしく思えました。研究や行政体験を通じ、実社会で働く上で大きな情報を得られたようです。

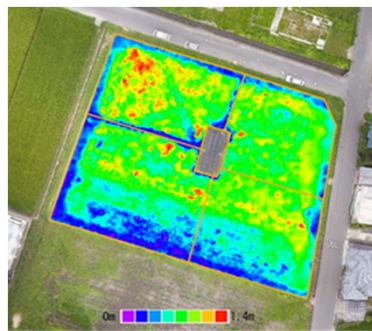
● ヤギによる社会実験展開中（技術的課題解決支援事業）！

東部建設事務所福山幹線道路建設事業課からの要請を受け、9/2～10/31の計画で、福山市駅家町の道路建設予定地（2,000m²）に、トカラヤギ6頭を終日放牧し、除草（草刈）の効果検証を行っています。地域の人たち（シルバーさん）のヤギ管理の協力のもと、緩やかではあるが着実な除草が進んでいます。さらに、地域の人たちがひっきりなしに見学を訪れ、『癒し効果』が抜群のようです。

除草効果は、畜産技術センターと西部工業技術センター生産技術アカデミーが連携して調査し、繁殖和牛の放牧での共同研究で培った空撮による草量把握技術を応用しています。

エノコログサ、ヒエ、メヒシバなどのイネ科雑草は採食が旺盛ですが、セイタカアワダチソウは嗜好性がやや低いようです。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/217/ecoyagi.html>（放牧の社会実験の紹介はこちら）



放牧地の空撮による草量推定



エノコログサを採食する放牧ヤギたち

● 牛舎見学と搾乳体験！



身を乗り出して搾乳ロボット見学

福山市西深津小学校の5年生51名（8/20）、吉舎小学校の1～2年生43名（9/12）の来所があり、牛舎見学や搾乳体験が行われました。8/20には、福山市の尾熊良一県議会議員も来所され、搾乳体験の様子を視察されました。

『牛はどれくらい食べる？』『生まれたときの体重は？』『口をもぐもぐするのはなぜ？』など、積極的な質問も多く飛び出し、『面白かったよ！』と子供たちの楽しそうな顔が印象的でした。

編集後記：我が家の秋の収穫は終了しました。広島県の作況指数は95となっており、収穫物にも未熟米が散見され、夏季の長雨の影響を肌で感じています。・・・SS